時空の万華鏡

山・人・海の「足跡」の移ろい

01 山·人·海の関係

●対象地

対象地は、気仙沼市本吉地区の大谷海岸と本吉中心市街地の間、細長い帯状の地域。

●山·人·海が絡み合う

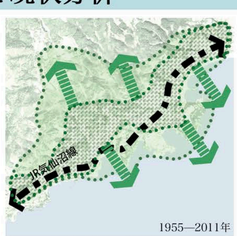
対象地の地形は、都市化が進んだ本吉市街地や大谷海岸と比べ起伏があり、山,人,海が絡み合っています。

02 対象地の歴史と現状分析

●対象地の成立ち

—1955年

1905年、大谷鉱山に探鉱エリアが建設された。金塊を作るためにやって来た人々はここに町を開拓した。1955年津谷町、小泉村、大谷村が合併し、本吉町となる。



1955—2011年

人々は、山を切り開き、漁港を拡大。1957年に JR気仙沼線は完成、この地域から製品の輸送が可能になり、一次産業が発達した。

2011—現在

東日本大震災は、本吉町の生活、経済、産業などに大きな打撃を与えた。その後、国も本吉町の復興に積極的に努めた。

●対象地の資源

この地域の資源は比較的豊富だが、散在している。合理的に資源を活用する体制がない。

●人口と産業

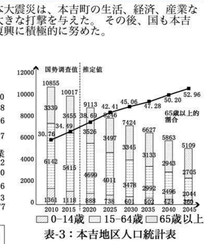


表-1：本吉地区産業タイプ統計表

年份	タイプ	第一次産業	第二次産業	第三次産業	総生業
2010	生業(百万円)	10795	44495	145277	200948
	割合(100%)	5.37	22.14	72.3	100
2016	生業(百万円)	12589	173619	139383	325385
	割合(100%)	3.87	53.36	42.84	100

表-2：本吉地区の産業総統計表

高齢化の進行、若年・中年労働者数の減少により、第一次産業の存続が危惧される。労働者獲得のため、新しい産業の拡大が必要。

表-3：本吉地区人口統計表

03 問題分析

忘れられない記憶：東日本大震災後に残された遺構と遺構に対する被災の記憶。

環境被害：地震による被害を受けた環境、核放射線の影響を受けた環境。

単調化した産業：対象地の主要産業は農業と漁業。一次および二次産業のほとんどは、本吉町中心市街地と大谷海岸の都市側に位置している。

QOLの低迷：公共活動、多様な活動のためのスペースの不足。

04 概念：時空の万華鏡

●山と海に向う人の活動

対象地で人々は平野に定住した。資源を求め、人々は平野から山や海へと進出し始めた。山では、田畑を耕し、鉄道のためのトンネルを切り開き、海辺には、漁港を建設した。

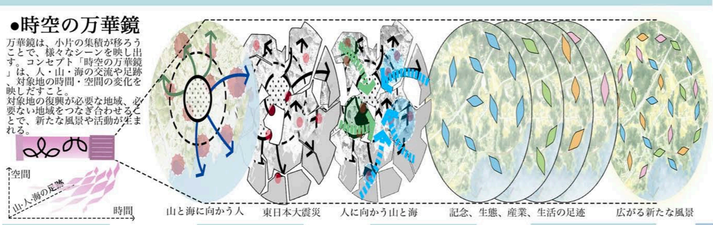
●人に向かう山と海

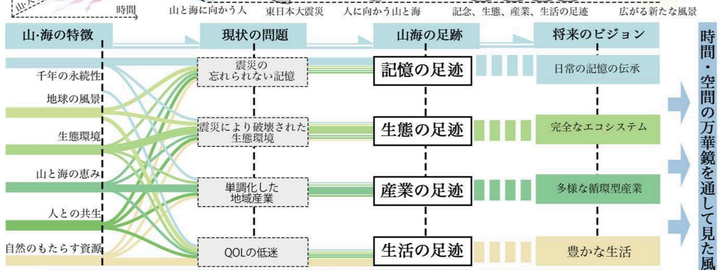
「足跡」は、山と海が平野に向かい交わることで作られ、それぞれ異なる痕跡を持つ。対象地内にパッチ状に点在し人々に新たな空間をもたらす。

震災後、山と海の資源が平野と交わり、自然が回復していく。 やがて、震災後に大きな被害を受けたこの地域は、自然との共存の中で新たな文化や活動を生む。人々は自然と共に豊かな生活を送るだろう。

●時空の万華鏡

万華鏡は、小片の集積が移ろうことで、様々なシーンを映し出す。コンセプト「時空の万華鏡」は、人・山・海の交流や足跡、対象地の時間・空間の変化を映したいこと。対象地の復興が必要な地域、必要ない地域をつなぎ合わせることで、新たな風景や活動が芽まれる。





山と海の特性を活かす事で、居住地域の環境、産業、生活、景観の課題解決に繋がるだろう。 記憶の足跡は、震災の痕跡を残すことで、震災の記憶を伝えるメモリアル風景を創出。 環境被害は、山や海のパッチにより生態系と共に再生していく。 産業の単調化は、山や海による多様な産業を発展させ、住民の生活の質を向上させる。 山や海の自然の恵みが人々の活動に入り込むことで、地域が豊かになっていく。

吉本地区の移ろい

1.現況の資源分析

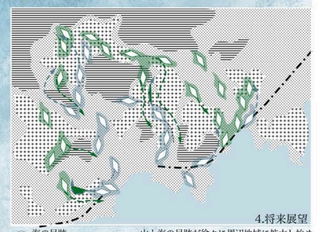
対象地区には山や農地が多く、漁港は2箇所ある。農地内には民家が点在しており、資源が分散しているのが特徴。

2.山・海の「足跡」

山や海を代表とする自然の要素を人々の暮らす地域に導入する。点在する資源が列状に統合され、山と海の「足跡」が形成される。

3.山・人・海の共生

自然の成熟が進み、人々の新しい居住地も形成された。人と自然の共生が再び始まる。

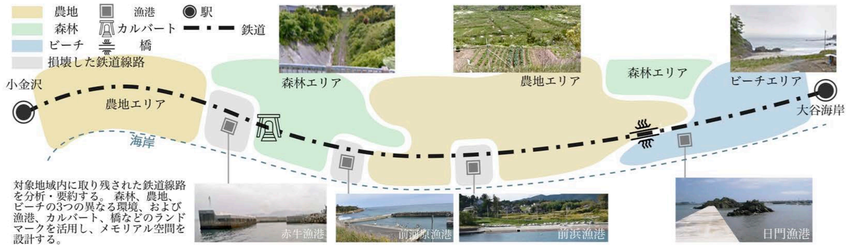


4.将来展望

山と海の足跡が徐々に周辺地域に拡大し始める。それらは相互に絡み合い、新たな環境基盤を形成し、地域の復興を後押しする。

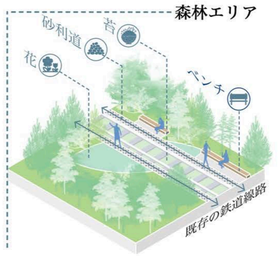
05 山・人・海の「足跡」の移ろい

●記憶の足迹：震災の記憶を新たな風景で紡ぐ



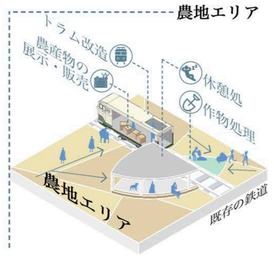
対象地域内に取り残された鉄道線路を分析・要約する。森林、農地、ビーチの3つの異なる環境、および漁港、カルバート、橋などのランドマークを活用し、メモリアル空間を設計する。

森林エリア



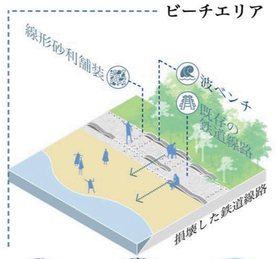
鉄道線路の外観を維持しつつ、人々が利用できるよう鉄道線路の周りに簡素な砂利道と空間を設け、木製のベンチを設置する。やがて鉄道線路にコケが生え、鉄道線路と森が一体となる。

農地エリア



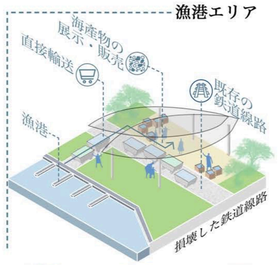
鉄道の本来の姿を維持しつつ、廃車を改造して設置。農産物の展示・販売の場として活用する。同時に、農民が作物を一時保管したり処理できるよう、休憩所と作物処理エリアを鉄道周辺に設置する。

ビーチエリア



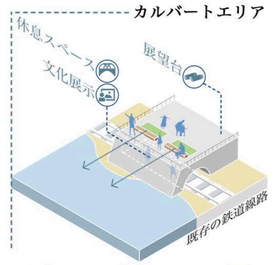
既存の鉄道線路を用いて波をモチーフとした波ベンチを作成した。人々は、ビーチで楽しみ休びとき、以前の災害について考えるだろう。

漁港エリア



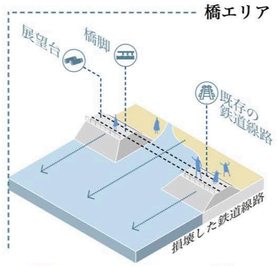
鉄道線路跡に簡易的な店を構え、海産物を展示、加工、販売する。既存の鉄道線路を再利用し、トロッコを走らせ、海産物の輸送を行う。

カルバートエリア



鉄道とカルバートを保存・利用する。カルバートは展望台となる。カルバートの下部空間は、浜辺のパラソルとなり、休息の場として利用される。同時に、カルバートを展示空間としても利用する。

橋エリア



鉄道コンクリート基礎は東日本大震災の重要な遺構である。この基礎を海を眺望できる展望台に転換する。

●生態の足迹：自然環境の更新

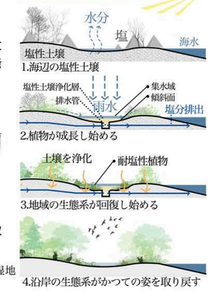
荒れ地の生態系復元

山の荒れ地
波状の地形は、雨水を土壌に浸透させ、水平排水層を形成する。在来樹種の移植は、土壌流出を防ぐ。

農地荒れ地
土壌への養分となる草本植物と在来樹種を植え、農地の生物多様性を促進する。

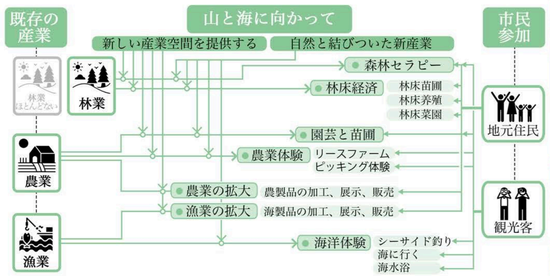
核汚染された土地
耐放射線性植物が土壌中の放射線物質を吸収、蒸発させ汚染土壌を浄化する。

塩性湿地の生態系復元



対象地域の沖合は、海水による影響により塩性土壌が形成されるため、植物の成長に適していない。耐塩性の植物によって塩性湿地は、徐々に塩類を浄化する。山や平野では、その地形的特徴に適した植物や植栽計画を用いて、生態系を回復させる。

●産業の足迹：山と海を組み合わせた新しい自然産業

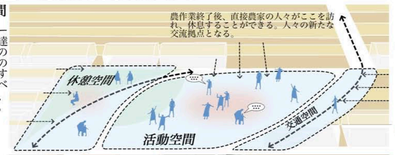


対象地域の既存産業のほとんどは、農業と漁業からなる一次産業であり、平野から山、海へと拡大してきた。これらの事業は更なる発展の可能性を持っている。山や海の要素を今度は平野に導入することで、自然生態学をもとにした新産業が生まれる。新産業は新たな空間を対象敷地にもたらす。

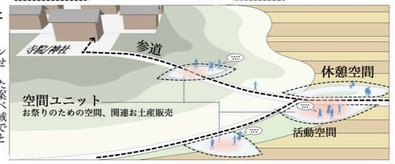
新産業は、原産業を基盤に拡大し、事業形態を充実させ、自然との一体性を追求し、生態環境を破壊しないことを目指しています。

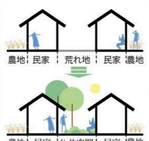
●生活の足迹：QOLを向上させる

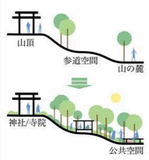
近隣間の公共空間
「農」と調和したオープンスペース。住民達はここを、農作業後の休息場所、住民同士の交流の場として利用する。ここでは公開イベントを開催しており、生活に彩りを与える。



神社仏閣と一体となった公共空間。
神社や寺院などのランドマークとオープンスペースを組み合わせた。参道にオープンスペースを設け、新たな参拝スタイルを提案する。各オープンスペースからは、この地域の風景を望むことができ、新たな交流拠点となる。







市民活動

7月	大谷シーサイドフェスタ
	本吉町長杯サーフィンコンテスト
10月	山田大名行列

神社と寺院祭り

須賀神社例祭	3月
八幡神社例祭	4月
瀧上神社例祭	5月
桜島神社例祭	6月
曹洞宗清涼院祭り	毎月

日常にお祭りを取り込む。お祭りが人々の交流のきっかけとなる。お祭りを利用し、地域の活性化を促進する。